

つばさ基金を活用した放射線教育振興プログラムの紹介

量子放射線系専攻 准教授 秋吉 優史

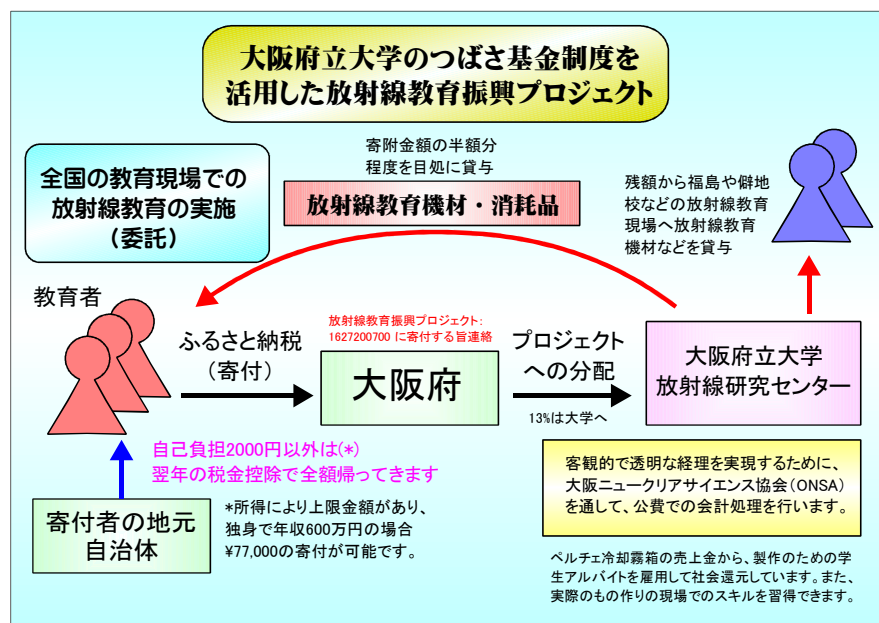
ふるさと納税制度は、一般的には全国の特産品をお得に手に入れられる制度として広く認識されていますが、納税者が自分の税金の使い方を決めることが出来る制度として活用する事が出来ます。府大のつばさ基金制度では、様々なプロジェクトを直接支援する事が出来ますが、寄付者には直接メリットがありませんでした。そこで、「放射線教育振興プロジェクト」では寄付頂いた金額のうち半分を上限として放射線教育のための消耗品・機材などを購入し、その物品を貸与して寄付者に教育を委託するモデルを構築し、寄付者にも、プロジェクト側にも、府大側にもメリットがあり、広く放射線教育を普及する事が出来るという Win-Win の制度とすることが出来ました。

これまでに千葉県大須中学、QST 関西光研、放射線教育フォーラムなどの放射線教育者に寄付頂き、本プロジェクトで開発を行っているペルチェ冷却式高性能霧箱を貸与しております。また私自身がプロジェクトに寄付を行い、奈良県山間部の僻地校である上北山中学や、放射線教育に非常に熱心な福島県三春中学、昨年報告した「みんなの暮らしと放射線展」での高校生サマークラス

参加者への特別賞としてペルチェ霧箱を貸与しています。残額でペルチェ霧箱の高性能化や様々な放射線プログラムの開発を行い、さらに科学の祭典などオープンスクール活動の際の他大学教員や学生への謝金として活用する事を検討しています(私を含めた府大教員には支払えません)。

この制度を活用することで、一度だけでなく、毎年同額以上の財源を安定的に確保可能であり、中高の学校教育現場の極めて厳しい財源不足を根本的に改善可能です。昨年4月の中学学習指導要領改訂に伴い放射線教育を従来以上に実施する必要がある事から全国的にアピールを行っているところです。

さらに、放射線教育振興に限らずこのモデルは様々な教育振興に活用する事が出来ますので、関心のある先生方は是非同様のプロジェクト運営を試みて下さい。国立、私立大学では出来ない、公立大学の大阪府立大学ならではの制度として、府大の知名度向上に資すると思います。



詳しくは上のQRコードにアクセス願います。
<http://bigbird.riast.osakafu-u.ac.jp/~akiyoshi/Works/TsubasaFund.htm>